

令和二年度始業式

みなさん、おはようございます。突然の一斉休校から1月以上が経ち、このような形とはいえ、令和二年度の始業式を迎えられることを、まずは嬉しく思います。

さて、昨年度の二学期終業式で、避難訓練の様子を見て「想像力がないと死ぬよ」ということを言いました。新型コロナウイルスが蔓延する状況を見て、今度は「想像力がないと、周囲の人を死なせてしまうよ」ということも心に刻んでもらいたいと思います。その周囲の人の中には、あなたたちの大切な人も含まれています。

みなさんは、昨年度の人権学習で、ウォーク人とフライ人について考える機会がありました。今の状況では、自分は大丈夫だろうと、感染症を他人事のようにとらえて、自分の近くで重症化リスクにおびえている人がいるかもしれないことに想像力を馳せず、無防備に振舞うことは、まさに段差に苦勞するウォーク人のことに想像力が及ばないフライ人のような立場にいるようなものです。想像力を働かせ、誰もが安心して過ごせるように心がけたいものです。

新型コロナウイルスとの闘いは、人類のエゴイズム（自己中心主義）との闘いです。首都圏を中心に、緊急事態宣言により人の行き来が制限されています。その中で、自己欲求だけで感染拡大地域に出かけたり、不要不急の外出を控えずに遊びに出かけたりして、社会全体の努力を無にすることは何としても避けなければなりません。今一度、自分だけの狭い視野で判断するのではなく、広く周囲を見渡して、自分はどのように行動すべきかを判断してください。

次に、敢えて嫌な言い方をしますが、皆さんはこの先、「新型コロナの時期の高校生」というレッテルから逃れることはできないでしょう。しかし、そのことを決してネガティブなイメージでとらえてほしくはありません。このような経験をしたからこそ、他のどの世代よりも命の大切さを知っている、このような経験をしたからこそ、力を合わせて困難を乗り越える強さを持っている、このような経験をしたからこそ、最も多感な時期に自分を見つめる時間がたっぷり与え

られ、人間的な深みをもっている、このような経験をしたからこそ、前例にとらわれることなく、自分自身でエビデンス（根拠）を持って判断し、物事の優先順位をつけられる。皆さんがそんな風に評価される時代が必ずやって来ると信じています。

また、今回のような非常事態には、皆さんとの繋がりを維持するツールとして、きずなネットや Classi が有効であることを実感しました。臨時休業中に、多くの生徒が食事の準備や掃除、洗濯物の取り込みなど、家庭内で一人前の役割を果たそうとしていたこともわかり、大変頼もしく感じることもできました。ただし、発信する側は、相手に届き、相手が理解し、相手が納得していると期待していましたが、受け取る皆さんが、受け取っていなかったり、理解していなかったり、納得していなかったら、コミュニケーションとしては成立していません。どうか、私たちからのメッセージをまずはしっかり受け取ってください。きずなネットや Classi のメッセージを開いて、「見ました」のリアクションを返してください。三重県、なかでも南部地域は大都市圏から離れていることで刺激が少ないというデメリットがありますが、ICT 環境で距離を埋め、情報格差をなくすことは可能です。

今の状況から、多くの教訓を得て、リスクに強い、よりよい未来の社会を創り出していく知恵を、一緒に身に付けていきましょう。 以上です。